

マザアスの掲げる「基本理念」とは

「何ごとでも人々からしてほしいと望むことは
人々にもそのとおりにせよ」

マタイによる福音書 7章 12節

カール・ハインリッヒ・ブロッホ
(デンマークの画家) 1877



私たちが持っている欲求の中でも大きなもののひとつが「大切に扱って欲しい」というものだと思います。怒りや落胆などの感情は、実は二次的なもので「大切に扱って欲しい」という欲求が叶わないときに怒りとなったり、落胆となったりするのだと言われています。

この理念は、イエス・キリストが山上で弟子たちと群衆に語った「山上の垂訓(さんじょうのすいくん)」と言われる新約聖書内のマタイによる福音書第五章から七章にある一節です。特にこの言葉はキリストの説教の中でも「黄金律」と呼ばれています。

「大切に扱ってほしい」という欲求は相手だけでなくわたくしにもという相互に焦点を合わせています。ほとんどの問題を解決でき、良いものへと変えることができる言葉だと思います。夫婦や家族間、仕事や商売、政治、などありますが、ここに着目して人生を成功へと導いている方を見ることができます。多くの経営者が挙げる読むべき本ベスト10に聖書が入っているのも頷ける気がします。マザアスのご利用者と関わる働きをしているものとして「大切に扱って欲しい」というご利用者との相互のこのこもった誇れる理念だと思っています。(ky)

トピックス



ブルーインパルスがマザアス新宿の上空を

(屋上から東方向: 中央に国際医療センター、左手に都営外山ハイツ)
東京パラリンピックの開会式が行われる日、航空自衛隊のアクロバット飛行チーム「ブルーインパルス」は都内上空を広く周回する展示(アクロバット)飛行を行った。パラリンピック競技はアスリートの紹介があったりしてとても身近に感じられた。そのためかこの国というより個人を応援している自分に気づかされた。

ブルーインパルスがマザアス新宿の上空を

カワセミが都会の公園の池に



カワセミが都会公園の池に戻ってきている(杉並区内公園の池で)

海岸や川、湖、池などの水辺に生息し、古くは町中でも普通に見られた鳥だったが、高度経済成長期には、生活排水や工場排水で多くの川が汚れたために、都心や町中では見られなくなった。近年、水質改善が進んだ川では、東京都心部でも再び見られるようになってきている。もしかするとみなさまの近くの公園の池や、川にも。

編集後記: わたくしたちの生活はラッシュアワー、仕事、病院の予約、ネット上の会話、買い物、そして学校の役割などに支配されて、携帯電話の機能がアップしコンピュータの処理能力が早くなり、インターネットの接続速度が早くなっても、なお、人は十分な休みを得られないのではないかと、思ってしまいます。疲れても弱って心を空にしても走り続ける者になっているのかもしれませんが。そうした生活が、知らず知らずに平安を拒ませ不安を生み出すような気がします。ネットカフェに通っても癒されない時代に生きています。「休み」について、それがわれわれ人間にとってどれほど重要で必要なものであるかを、もう一度考えて見たいと思っています。(草野)

ひだまり

No.93

発行責任者: 高原敏夫 発行元: 社会福祉法人マザアス

〒203-0004 東京都東久留米市米川台二丁目5番7号

TEL. 03-6166-6803 FAX. 03-62852535

<http://www.moth.or.jp>

マザアスニュース

No. 93

2021年10月31日

ひだまり



MOTHERTH

MOTHERTH NURSINGHOME FOR THE AGED

そこに 笑顔あふれる あなたの 居場所



秋空の午後のひと時
マザアス新宿の
近くの公園を散策

「マザアスの歩み」シリーズ④/⑥

6回シリーズの4回目と後半に入りました。年に3回の季刊誌なので2年かかりですが早いものです。マザアスで働くみなさま、ご利用者、ご家族、関係者の方々がマザアスの歩みはこうだったのか。と、知っていくことが楽しみとなっています。(編者)



理事長 高原敏夫

地域の社会資源

理事長 高原敏夫

社会福祉法人マザアスが最初の事業として、特別養護老人ホームマザアス東久留米を市の東部地区に、市内で3番目の施設として開設したのは平成7年5月8日だった。開設前に建物の内覧会を実施したところ、大勢の市民が見学に訪れてくれたが、実はその時からボランティアを募ったことは、以後の活動に大きな助けとなり、法人の強みの一つにまでなった。その動機は「職員がいくら頑張っても良い施設づくりはできない。職員と利用者とその家族及び地域の人達の協力があって、三本の柱で支えれば強固なものが出来上がる」と考えたからだった。確かにボランティアの人達の支援、いち早く発足した家族会が活発に動いてくれて、若い職員の言葉使いまで介入して職員教育や諸活動に協力していただいた歴史がある。

法人が所有する建物、雇用している職員や提供しているサービスはどのような存在なのかについて「社会資源」の視点で考えてみることにしたい。この言葉を精神保健福祉用語辞典でみると「社会資源とは、利用者がニーズを充足したり、解決するために利用される各種の制度、施設、機関、設備、資金、物資、法律、情報、集団、個人の有する知識や技術等を総称している」。社会資源の視点から見ると、法人の施設、設備、情報、集団(職員)、職員が持っている知識や技術等は利用者がニーズを充足したり、解決するため地域の住民に利用していただく為に存在するということになる。

ある8月の出来事、92歳母親は「最後まで病院にはいかない」と日頃から言っていた。娘さんが前夜見舞いに来て、全身がいつもより冷たいと感じて胸騒ぎがしたので、ホームのゲストルームに泊まることになった。居室で枕元に付き添われたが、話しているうちに添い寝することになって、その場で頬にチューとキッスしたら、スーッと涙がこぼれたそうです。お母さんはそのまま亡くなったのである。翌朝娘さんが「病院ではこういうケアはできなかった」と、満足気に笑顔で最期を語っておられた。

私共の働きは利用者や家族、地域から見放されたら、存在し得なくなる。地域に不可欠な存在にならなければならない。一番ヶ瀬元日本女子大学教授が「人権保障の総仕上げの場面として、老人ホームの介助の持つ意義は、きわめて大きいものがあります。人権の総仕上げの援助者、人生のフィナーレを盛り上げる演出家として、皆様の活躍を大いに期待しています」と書いている。一度、私達の施設、私達の提供するサービスを「社会資源」の視点から見つめることも大切なことではないだろうか。

マザアス東久留米から

敬老会で パフォーマンス

国家試験合格目指し勉強中



2年生、試験間近!!

留学生 活躍中

今年度は1年生3名が加わり、浴衣を着て、フィリピンのダンスを披露してくれました。大好評でした!(^^)♪



事前練習



マザアス日野から



日野事業所にある、小規模多機能ホームみなみだいらでは、要介護認定を受けていても、認知症の症状があっても、介護保険施設を利用していたとしても、ご利用者が持っている能力を発揮し、社会活動を行う事で、社会の一員としてあり続けられるよう支援をすることを考えています。

その考えの中から生まれた取り組みが、物作りに挑戦し販売する、ということです。単に何かを作って、そして販売する、ということだけではなく、その活動を通じた社会活動への参加とそれを実感していただくことが目標です。

現在取り組んでいるのは、「クルミボタン」の制作です。ご利用者の皆さんと一緒に制作に取り組み、当該取り組みと完成した商品を、法人内他事業所職員にも見てもらい、価格設定等についての意見を集約しています。

まだまだ課題も多く見つかっていますので、これからも改善を図りながら、目標の達成を目指します。

尚、この取り組みは、上記目標の他、働く職員の意識向上も狙っています。ご利用者が作る物であっても、高いクオリティーの物を作り出し、それが第三者に認められ、購入されることを通じて、職員の成功体験や新たなやりがいに繋がること、従来の固定概念を覆すことで、それらに興味を持つ新たな職員が仲間として加わることも等も副産物としての期待を込めて活動を続けています。

マザアス新宿から



「マザアスへようこそ 気ままに あるがままに」マザアス新宿のエントランスを入ると、僕たち可愛い猫が出迎えます。気ままに、のんびりいきましょうよ～ってみんなに声をかけています。僕たち猫の生みの親は、ここマザアス新宿にご入居してらっしゃる方の奥様なんです。奥様は、マザアスにボランティアさんとしても来てくださっていました。今はコロナ禍だから施設内には入れないけど、代わりにこうやって僕たちを送りこんでくれたんです。僕たち猫(実は一番右の子は犬さんです)の使命は、マザアスに関わる全ての人たちに伝えること。「あるがままの自分で、気負いなく、楽しく、笑顔で」人生は長い、のんびりいきましょうよ。

ボランティアコーディネーター 小松美紀